

# ボクのおとうさんは、 ボランティアというやつに殺されました。

著：宮崎大輔

青年海外協力隊所属、現在は中南米パナマ共和国で活動中。



ボクはおとうさんと山奥の村で幸せに暮らしていました。

毎日畑で採れたトウモロコシとイモを食べて、川で魚を捕まえ、山で鹿を狩り、一日中一緒に過ごしていました。

しかしある日、村にボランティアというやつが来ました。

そのボランティアはニホンという海の向こうから来ました。

そして、ボランティアはボクたちにこう言いました。

「トウモロコシとイモばかり食べていたら栄養不足になる。これからはヤサイを育てて食べなさい」

その日からおとうさんはヤサイを育てるために、一日中畑で働かなければならなくなりました。

トウモロコシとイモは育てるために手間はかかりませんが、ヤサイは毎日世話をしなければいけません。

おとうさんと一緒に川で魚を捕まえる時間はなくなりました。

食事にはトウモロコシとイモの代わりに、ヤサイが出てくるようになりました。  
ヤサイとは、葉っぱが何枚も重なった丸い草やとても苦い緑色の実でした。  
ヤサイは初めて食べる味と触感で、また食べたいとは思いませんでした。  
それに我慢してヤサイを食べても、トウモロコシとイモと違ってすぐにお腹が空いてしま  
います。

またボランティアが来て、言いました。

「君たちは貧乏で何もモノを持っていない。次はヤサイを売ってお金を稼ぎなさい」

おとうさんはヤサイを売るために、毎日町と村を往復しなければならなくなりました。  
しかも、今までは自分たちで食べる分だけのヤサイを育てていましたが、これからは売る  
ためにもっとたくさんのヤサイを育てなくてははいけません。  
おとうさんはヤサイを売ったお金で、テレビを買いました。  
しかし、おとうさんと一緒に山で鹿を狩る時間はなくなりました。

ある日、またボランティアが来て言いました。

「もっと幸せになりたかったら、もっと働いてもっとお金を稼ぎなさい」

おとうさんは、一年中お金のことを考えるようになりました。  
今は昔よりもたくさんモノが家にあります。  
しかし、もうおとうさんにボクと一緒に遊ぶ時間はありません。  
ボクのことを考える時間ありません。  
おとうさんは朝早くから夜遅くまでお金を稼ぐために働いています。

その様子を見て、ボランティアが満足そうに言いました。

「この山奥の村も、ようやく幸せな暮らしに変わったな」

ボクの大好きだったおとうさんはもういません。  
ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました。

めでたし、めでたし？



これは「しあわせ」をテーマにした新聞広告コンテスト最優秀賞になったコピーです。  
このコピーは、見方を変えると幸せの定義は変わることを表現しています。

---

### 「コピーライターのコメント」

ある人にとってしあわせと感ずることでも、別の人からみればそう思えないことがあります。反対の立場に立ってみたら。ちょっと長いスパンで考えてみたら。別の時代だったら。どの視点でその対象を捉えるかによって、しあわせは変わるものだと考えました。

---

彼が伝えたかったことは、正義と悪は表裏一体の関係にあり、見方を変えると正義と悪は入れ替わるということなのでしょう。

桃太郎という THE 正義の味方は、見方を変えると THE 極悪非道の悪魔に変わります。とすれば、同じく THE 正義の味方であるボランティアも、THE 極悪非道の悪魔に変わる可能性があるわけです。

上の話しに出てきたボランティアとは、実は僕のことです。僕がやっていることは、満ち足りた幸せな暮らしをしている山奥の村人に「不幸な人生を送っている」という劣等感を植えつけ、彼らの食文化や伝統的な暮らしを壊すことだったのではないかと悩んでいます。

さらに言うと、国際協力とは「小さな親切、大きなお世話」だとも感じてしまっています。

国際協力活動を行うボランティアは「途上国の幸せのために」という正義を振りかざしていますが、その活動は本当に途上国の幸せのためになる行為なのか。正義という言葉は、恐ろしく危険な凶器かもしれない。

あれ以来、そんなことを、モヤモヤと悩んでいます。

モヤモヤと悩んでいたら、タンザニアに住んでいた先輩から、協力隊に参加する前にももらった言葉をふと思い出しました。

「協力隊に参加すると国際協力の意義について悩むだろうが、そんな時は焦って答えを求めずに悩み続けたらいい。実は、俺もまだ答えが出せずに悩み続けている」

おかげで最近では真剣に悩めることに「幸せ」も感じています。青年海外協力隊は国際協力について考える最高の舞台の一つだと思います。そして、真剣に悩みながら活動すれば、自然と次に進むべき道も見えてくる気もしています。

\*\*\*

ついにボクは決心し、おとうさんとボランティアに言いました。

「この村にボランティアは必要ない。これからはボクがこの村を守る！」

ようやくボランティアはニホンに帰りました。

めでたし、めでたし …？